

伊是名村の農業

伊是名村では、さとうきび、水稻を中心にタマネギ、カボチャ等の園芸品目が栽培されています。今回は各品目の生育状況を紹介します。

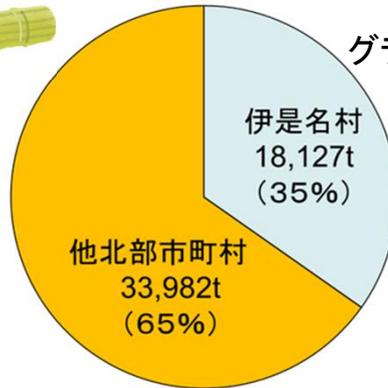
(担当：伊是名村駐在 桑江)

さとうきび



さとうきびは、伊是名村において最も生産額が多く、北部地区の約35%を占める品目です（グラフ参照）。

単収は4.8t/10aと北部地区平均（4.0t/10a）に比べて高く、機械収穫も約87%と進んでいます。伊是名村では、イネヨトウやカンシャシクイハマキの発生が続いているため、共同防除を実施し被害の蔓延を防いでいます。



グラフ：北部地域における
さとうきび生産量

注) 令和5/6年産さとうきび及び
甘しゅ糖度実績



共同防除の様子▶

水 稲



伊是名村では1期作で「ひとめぼれ」を、2期作で「北陸193号」を栽培しています。

生産面積は1期作で45ha、2期作で21haで共に前年並みでした。収穫された「ひとめぼれ」は「尚円の里」という商品名で販売され、村内外で消費されています。



◀ひとめぼれ収穫風景



共同育苗風景▶

園芸品目



伊是名村では、タマネギやカボチャ、冬瓜、ピーマン等が栽培されています。高齢化等が原因で栽培面積が減少し生産量が伸び悩んでいます。

関係機関と連携し、生産量の維持・拡大に向け生産者の単収向上に取り組んでいます。



タマネギ生育状況



カボチャ収穫風景

伊平屋村のタマネギ病害虫対策

伊平屋村のタマネギ生産では、軟腐病やべと病の相談が寄せられています。これらの病気の特徴と対策について紹介します。

(担当：伊平屋村駐在 平良)



軟腐病 ～特徴と対策～

りん茎（球）の肥大が始まる頃から発生し、葉鞘（葉の基部）が灰白～淡黄色にかわり、葉が倒れます。悪臭が出るようになり、**貯蔵中や輸送中にも発生**します。

多湿時に多く発生し、雨で広がってしまいます。強風や農作業時の傷、アザミウマなどの害虫跡から侵入して発生するため、**初期防除とアザミウマの防除**が大切です！収穫は晴天時に行い、十分に乾燥させましょう。

また、**強風雨の前後に薬剤予防散布**を行い、株元までかかるように丁寧に散布しましょう。

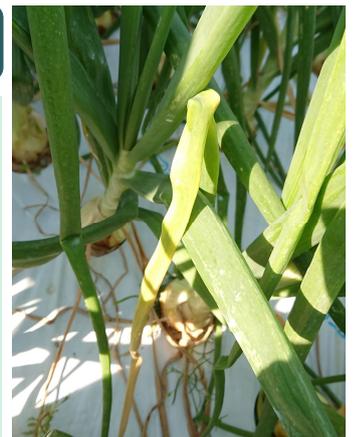


軟腐病の断面

べと病 ～特徴と対策～

かびの一種により引き起こされる病気です。りん茎（球）が肥大し始める頃から収穫期にかけて特にかかりやすく、葉が湾曲し、色あせて黄色になっていくのが特徴です。

対策として、健全苗を使用すること、**排水対策**を行うこと、**感染前の薬剤予防散布**が挙げられます。また、タマネギは農薬が付着しにくいので、**展着剤**を使用すると効果が上がります。



べと病

栽培暦：タマネギ

○ (播種) △ (定植) □ (収穫)

作型 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
普通	○ ——— □□□□ □ ——— △ ———											
	□□□□ □ ——— △ ———											
セット (養成)	○ ——— □□ □□□□											
	○ ——— □□□ □□□□											
セット (栽培)	□□□□ □ ——— △ ——— □											
	□□□□ □ ——— △ ———											

サツマイモ基腐病について

基腐病がまん延すると収穫量が激減します。今年も北部地域で発生が確認されています。症状を発見したときの対策と基腐病に強い新品種について紹介します。

(担当：與座)

12月～2月頃の主な対策

- できるだけ早期の収穫を行い、収穫後に耕うんを複数回行って、収穫残渣の分解を促進して野良イモの防除をしましょう。野良イモは、長期間圃場で生育することで、基腐病菌の伝染源となります。
- 夏・秋植え圃場では感染株の抜き取りをおこないましょう。発病株を残しておく、と、大量の胞子が形成され、周辺株へ感染し、蔓延の原因となります。また、農薬散布(茎葉処理)で、正常株の感染防止や発病抑制が期待できます。詳しくは表紙右上記載の連絡先までお問い合わせ下さい。

主な症状



葉の黄変／茎の基部の黒変



地上部の枯れ上がり



芋の腐敗

基腐病に強い新品種



おぼろ紅



ニライむらさき

- 「おぼろ紅」「ニライむらさき」とともにサツマイモ基腐病に強い抵抗性があり、加工向け主要品種の「ちゅら恋紅」と同程度の加工適性を持ち、さらに食味も良い品種になります。
- 収量は「おぼろ紅」は「ちゅら恋紅」と同等、「ニライむらさき」は「ちゅら恋紅」にやや劣りますが、基腐病発生ほ場での健全いも収量は「ちゅら恋紅」より多くとれます。
- 「おぼろ紅」は島尻マーヅで紅色が薄くなりやすい。「ニライむらさき」はジャーガルで収量が低くなりやすい特徴があります。ご自身の畑や用途に合わせて栽培してください。

※「おぼろ紅」「ニライむらさき」の育成者は農研機構のため、
利用の際は農研機構の利用規則等に従う必要があります。

お問い合わせ先) 農研機構九州沖縄農業研究センター糸満駐在

〒901-0336 糸満市真壁820 TEL: 098-840-3553

